

軒昂会

軒昂会会報 第27号
 発行者 日原 雄
 編集者 田村千秋
 発行日 平成19年8月
 URL : http://ct.photo-web.cc/kkk/
 会報 : http://ct.photo-web.cc/kkk/pdf

会報は年2回予定しています。
 皆様の原稿お待ちしております。
 頂いた方にはお礼申し上げます。
 原稿の送り先
 Eメール : ctamur@ybb.ne.jp



平成十八年度総会報告
 場所 箱根湯元ホテル
 日時 平成十九年四月二十三日
 六時より総会後宴会(一泊)
 出席者十九名
 総会内容
 日原会長挨拶
 会計報告 田村
 前年度よりの繰越金
 五二万四千六百四十四円
 十八年度入金(会費)
 五万二千円
 十八年度支出
 五万八千円
 十九年度へ繰り越金
 五一万八千六百四十四円
 野呂監査役の監査報告
 会計報告通り決定されました。
本間会員より報告
 「アマタ創業三者偲ぶ会」の発
 足について報告がありました。
 去る平成十九年一月二十日、
 故天田勇様命日に、勇会と称し
 て試行的な実施を行い、二百名
 にお知らせしたところ、九十名
 の方にご集集を頂きました。
 その際、出席者の中から平成
 十八年二月に故人となられました
 江守龍治様の偲ぶ会が話額と

軒昂会だより
 現在の会員数は五十六名です。
 お願い
 平成十八年度軒昂会会費二千元合計まで
 お振込みをお願いします。(総会出席者徴
 収済み)
 振込み先
 株式会社みずほ銀行厚木北口支店
 口座番号 二二二六九〇〇
 軒昂会代表者 小泉岩根



吉田友彦さんと、四月軒昂会総会にて。
 撮影：小日向会員

なり、天田力雄様を含めた創業三者の偲
 ぶ会をアマタ創業日に併せ、行う運びと
 なりました。
 軒昂会会員の皆様方には既に案内状
 が送付されていると思えます、未着で
 したら連絡下さい。
 前回の総会は、出来るだけ多くの会員
 の出席を目的に、近場で行きやすい
 所、会費負担を出来るだけ軽減する等
 を考慮に入れて、日帰りで東名厚木健康
 センターに決めましたが結果は参加者
 二十名で効果はなかったと幹事一同反
 省して従来通り一泊にしました。おかげ
 でゆつくりと温泉に浸かり一年ぶりの
 再開に酒を酌み交わし友好を更に深め
 ました。
 この会報編集集中に悲報連絡が飛び込
 んできました。軒昂会会員安部清さんが
 八月十日逝去されました、享年六三才。
 慎んでご冥福申し上げます。



S22年11月 中学5年生当時の筆者
 修学旅行で皇居前広場。

「風雪の青春」 西牧準夫
 戦中、敗戦中の学園回顧録
 (大戦末期の本土決戦に備えて
 飛行場作りと原爆用ウラン鉱石採掘)
 一 学童疎開
 時は昭和十八年、戦時中の我が故郷、
 福島県「石川町」は文字通り石川・山
 にかこまれた小さな田舎町(人口六千
 数百人)であったが、この地にも戦局悪
 化の知らせが届けられていました。
 国民学校の集団学童疎開で東京(日
 暮里)の小学三年生から六年生まで七
 三一名と縁故家族の学童五百名とな
 り、当時私の家にも父親が秋田鉱専卒
 の鉱師家族で二名の学童が共同生活を
 していました。疎開児童たちは、地元
 の低学年の午前中の授業が終わったあと
 に午後の授業を行なうという完全部制
 で授業を行っていました。
二 崩れゆく学びの場、学徒労働員
 学徒出陣は昭和十八年六月。
 学徒労働員令昭和十九年七月。
 そのような中、私立男子中学校現在
 の福島県学法石川)の五年生一三三名
 は、相模原軍需工場への配属が決まり、
 翌年三月三十一日に造兵内で卒業式をす
 まし、そのまま終戦まで勤務員が続
 いていた。
 軍隊志願者及び上級学校入試にパス
 したものの、農業従事者が次々に帰り、
 残った二十人は石川中学報国隊を結成
 したが、その後、帰郷者が増えて、八月
 十五日には七名となってしまってい
 た。
 また中学四年生は戦況悪化に伴い一
 年繰り上げての昭和二十年四月に卒業
 を迫られ、
 以下裏面

「世界遺産の宝庫」 桜田忠男
トルコ見聞録
 平成十八年十二月にベルリンのペルガモン美術館
 で「ゼウスの祭壇」を観てその大きさに圧倒されて
 からトルコの遺跡を巡る旅に出ることを計画してい
 ました。トルコはまさに世界遺産の宝庫で、トロイ
 の木馬で有名な「トロイ遺跡」、都市遺跡の「エ
 フェソスとヒエラポリス遺跡」、首都イスタンブー
 ルの「トプカプ宮殿」「ブルームスク」「アヤソフ
 イア大聖堂」「地下宮殿」などの文化遺産それに
 カップドキア、パムッカレ石灰棚などの自然遺産が
 あり平成十九年四月それらを探訪してきました。

トロイ戦争の発端は、美人コンテストの審査員
 だったトロイの王子パリスが、女神達にそのかさ
 れ、スパルタの王妃ヘレネを誘拐してしまう。ギリ
 シャ軍は彼女を取り戻そうと、何度も進軍し、十年
 もの長い年月を費やすが、取り戻すことができな
 かった、そこで一計を案じ、木馬と一人の生贖を残
 し、撤退したようにみせかける。トロイ軍は戦利品
 として木馬を城内に引き入れ、祝宴をあげる。深夜
 になって木馬の中に潜んでいた兵が城内に火を放
 ち、舞い戻って来たギリシャ軍と、あつという間
 に陥落してしまいました。
 以下次号



ギリシャの吟遊詩人ホ
 モロスの「イリアッド」
 の話を、ドイツ人ハイ
 リッヒ・シュリーマンは
 信じて、周囲の嘲笑にも
 めげず、一八七一年に発
 掘を始め、一八七三年つ
 いに、トロイ遺跡を発見
 したと言われています。
 発見者シュリーマンの死
 後もこの遺跡の発掘は続
 けられ、現在九つの層に
 わたる都市の遺跡が発見
 されています。

「トロイ遺跡」
 この遺跡はトロイの木馬でわれわれ日本人にもよ
 知られたトルコの遺跡です、最初にトロイの町がで
 きたのは、紀元前三千年頃らしい。その町を最初の
 地層として二千七百年の間の年代ごとに多くの都市
 が埋没して層をなしています、火災や侵略によつ、
 消滅、再建が繰り返され、紀元前三百年頃の第 市
 まで続きました。



沢田飛行場復元図

日立多賀軍需工場(茨城)に動員されてきたが、これも八月の終戦で、全てが終わることとなった。

四年生で卒業したものは三分の一で、三分の二は五年生で二十年九月学校にもどり、二十一年三月に卒業していた。

石川町立女子中学校の三・四年生百二名は昭和十九年十月～二十年四月に、川崎いすゞ工場へ強制移動となり、そしてあの二十万人の犠牲者をだした三月十日の東京大空襲により、川崎滞在は危険となり四月二十二日にやむを得ず全員が引き揚げの対象となつてしまった。

三 本土決戦に備えー・福島県沢田飛行場誘導路の建設

我々、三年生百六十名は飛行場に隣接する誘導路建設のため学校から六十キロメートルの現場作業のために向かうのだが、現場といつても山と畑を強制収容して、切り開いた所で主に人海戦術型でこなしていた。

猫鳴、沢井地区を通過し、滑走路工事を右手に見ながら、私達が担当する赤羽誘導路建設地へ毎日向かう。

約十キロメートルの砂利道を徒歩で行く者、自転車を通つた者、当時自転車を持っている者は少なかったが、私は小学六年生の時から、新聞を駅から松庄屋バス発着所午前七時発の竹貫行きのバスに乗せる配達のアルバイトを六年間続けていたので、その為の自転車があり赤羽の建設地まで自転車で通つて来た一人でした。

それは現地集合の午前十時に始まり十五時現地解散、百六十名は軍の命令で役割分担を様ざまに割り当てられ、重労働は午後三時まで毎日続いた。我々の作業内容は残土処理が主で、トロッコ運び担当、モッコ担ぎ担当、兵士も十六名が付き、作業を行なっていた。

また、長さ二千メートルもの凸凹な土地に誘導路を整地するため、重機(ブルドーザー等)は数台あるだけで、主に手作業で四トンもある石製ローラーを引き、合計四十五名が動員された。

作業内容は、樹木の伐採、トロッコに土を積み、運ぶ、土を均す等、毎日タタの繰り返し。滑走路工事も最終段階で、手引き式のローラー掛けに私達も駆り出された。安積中、白河中、田村中、石川中の学校対抗ローラー引き競争をした事もある。手には豆、腹はペコペコ、足はガクガク。仕事が終つての帰り道は特に遠く感じた。

戦況は悪化するばかり、工事日程は遅れ、連日連夜の労働で衣、食、住どれも満たされるものない兵隊さん達は、ただ有るのは上官のハツパと体罰。或る昼休みに私達学生に向つて、私達の班長だった上等兵の戦地経験者が云つた、「戦地なら後玉だ」の言葉が、恐ろしい記憶として今に残っている。

結局この苦勞もまったく報われること無く程なく終戦となつてしまふのである。一ヶ月余の活動であつたが通勤と毎日の空腹も重なり、その作業が一番辛かったことを今日でも改めて思い起こすことがある。

県内中学五校千四百名、勤勞動員業者六百名、古参兵士三百五十名地元関係者以外は小さな沢田村に集団宿直者であつた。

四 B29米襲、機銃掃射の恐怖体験

或る日、滑走路と誘導路を結ぶ測量に、班長の上等兵と私とあと二人、計四人で行きました。空は日本晴れ。正午近く、一空襲だー。南の空か

らB29の九機編隊、進路は北である。私達は北側の土手に伏せて見上げた時、太陽の反射でピカピカと小さな光、「ああ友軍機だ」それはさすがに抵抗！。二、三十分後だったか今度は北から南へ向かつて来た。

「反対側の土手に伏せる！」との命令だつた。

そのB29の高度は八千メートル位。その最後尾の編隊が我が中学校を機銃掃射をしたと記憶している。

五 ウラン鉱脈の探掘

(福島県石川町)

一八九七年(明治写真十年)福島県石川義塾学校長の森 嘉種氏はウラン鉱石を発見していた。

一九四四年(昭和十九年)第八陸軍技術部を校内に移設してその原爆研究資料を保管されています。

石川山から産出されたサマルスカイトは板状の結晶で酸化ウランの含有率は、平均一九％、特に、それが二二％及び結晶の角度に違いあるものを、イシカワウィット(石川石)と呼ばれていて当時、世界で紹介されたこともあつたそうです。

我々学生百名は四から五名で班を作り、理化学研究所の指導のもとに、山の表面を巾三メートル・高さ六メートルにわたり、切り通し式に残土処理作業・モッコ担ぎで掘り進み、石の層(珪石・長石) が出れば、理化学研究所の担当者に渡し、次の山に移動を繰り返した。

ある日、理研の担当者が我々に対して掘り進みが速いと理由で、「特別賞」として当時は珍しいキヤラメルを一人、数粒だけ貰つたことの記憶旨かつた！。がいまでも鮮明に覚えていています。

或る日、監督の担当者が、「君達が掘り出している石を使って爆弾を作ると、マツチ箱一つの大きさ位で、今の爆弾の数千倍の破壊力を持つ新型爆弾が出来るのだぞ」との話を聞き及び半信半疑ながら、石掘り(穴掘り) 作業の目的が判つてからは私達は多少元氣

、やる気が出て来たように思えた。家に帰ると、すぐに釜のふたを取つて見る。「飯がない時は、自分で米を研ぎ、飯を焚き、芯のあるご飯に生玉子をかけて食べることもあつた。」

ところが或る夜から数日間腹痛が続き、盲腸炎と判明、須賀川の病院に入院、約一ヶ月半、母と姉が交代で看病して呉れて、七月中旬にやっと退院出来、帰途我が家に近づくとつれ、健康第一を真剣に考えようと思つて思いました。

六 シルコン(希少鉱物)工場の建設

水洗い三層に沈む重い石砂、選鉱石とその化学的処理が主な仕事であつた。昭和十八年一月～十九年四月にかけて、私の畑の隣りに工場が出来て、石川産出鉱物及びマレーシア産のウラン錫鉱石、朝鮮産黒砂、国鉄石川駅から南京袋を積んで運ぶ荷馬車を何回も私は見た覚えがあります。

当時の町立中学校に隣接した工場はその後、県立女子高等学校建設となり、現在は男女共学の私立学法高等学校の二校となりました。



右写真説明

石川山探掘現場、ウラン鉱を採掘する人々を激励する第八陸軍技術研究所の元幹部。一九四五年五月一五日撮影。

この記録は西牧会員が天田会会報に投稿されたのを数回に分けて掲載します。



奇妙な建造物 よくこんな岩石の中に部屋等建造したものだ。

編集後記

天田会会報に掲載された西牧会員の「風雪の青春」を拜読し感銘しました。是非皆様に紹介したく、西牧、谷田(天田会会報責任者)両会員にお願いし了承を得ました。

また、毎回原稿をお願いしていますが、興味ある世界遺産めぐりの記事を頂感謝しています。紙面の関係で今回頂いたのが全部掲載出来ませんでしたので次回号ご期待下さい。

軒昂会会報のバックナンバーは次のURLでご覧ください。PDFですので同じスタイルで印刷できます。
<http://ct.photo-web.cc/kkk/pdf/>

会員の皆様、お誕生日は何曜日だったか知っていますか。同封の住所録に載せています。